

1 「大仙市人口ビジョン（改訂案）」「第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」に関するパブリックコメントの実施結果について

(1) 募集期間 令和2年1月7日（火）～1月31日（金）

(2) 募集結果 ①提出数 0通  
②ご意見の数 0件

(3) 提出のあったご意見等の概要及びご意見等に対する市の考え方

No.	項目	ご意見等の概要	ご意見等に対する市の考え方

2 地域協議会への説明について

(1) 各地域協議会への説明状況

開催日	地域協議会名
令和元年 12月17日	南外地域協議会
12月18日	西仙北地域協議会
12月24日	神岡地域協議会
令和2年 1月16日	大曲地域協議会
1月24日	協和地域協議会
1月29日	中仙地域協議会
1月29日	太田地域協議会
3月2日	仙北地域協議会

## (2) 地域協議会からの主な意見（要約）

- 今後の人口減少の推移に対して、市ではどのくらいの数値を目指すのか。また、目標設定と具体的な取組はどのようになっているか。
- 総合戦略の戦略パッケージに産業の振興について盛り込まれているが、全ての地域をくまなく一様に事業を進めていくことは難しいと考える。コンパクトシティ化を見据えて、地域別に推進する産業分野を特定してはどうか。
- 今回説明のあった人口ビジョンや総合戦略は、国や県から策定するように指示あって策定を進めているのか。それとも、市独自で進めているものなのか。
- 各地域の将来像について定めた計画があったと思うが、その計画について説明願う。
- 若者の移住・定住についてはどの計画に盛り込まれているか。
- 現在私が住んでいる地域でも人が少なくなり機能しなくなった集落が出てきている。昔はたくさんいた子どもも現在は非常に少なくなっている。こういった問題はある程度致し方ない部分もあるかもしれないが、何もしないと状況は更に悪化するかもしれない。答えがあるかわからないが、若い世代や高齢者など様々な方々から意見を聞いてもらいたい。
- 親の教育の話だが、息子が高校生の時に開催された母親集会で、当時の会長さんが、親が若者を流出させていると言っていたのを思い出した。外に目を向けさせるような教育だけでなく、自分が住んでいる地域の素晴らしさなど、外に出ても地元に戻ってくるよう伝えるべきだったと思う。
- 現在教育委員会で大仙市ふるさと博士育成事業を進めており、地域の子どもが地元の素晴らしさを知るきっかけとなっている。その成果があつてか、地元に残って地元のために貢献したいという子どもが増えてきているように感じる。親世代はこの流れを後押しするような教育をしなければいけないと思った。
- 人口ビジョンの中で地域別の人口推移を示してもらったが、我々市民としては、地元に着せず広い視野で物事を考え、他地域と協力できるところは一緒に行っていくというスタンスの方が大仙市全体として発展していくと思う。
- この資料を見て自分で読んでみたところ、なかなか理解できなかったが、それだけこの資料は、すごい資料だと思った。

- 一番大変だなと思うのは人口問題。何をやるにしても人が集まらなくて大変である。説明を聞いて、どうしたらいいのかという方向を表している資料だなという印象を受けた。できる範囲内で実現に向けてお願いしたい。
- 説明を聞いて、びっくりしている。特に、人口ビジョンの推移を見ると悲惨的な見込みで、国の機関が推計した数字なので、このような結果になったかと思うが、非常にびっくりしている。
- 総合戦略の重点施策と施策の体系について、大仙市には若い人が勤める職場が無いということで、市外なり県外に流出しているものと思われるが、果たして重点施策として農業を①にしているのかというのが疑問に思う。②あたりにチカラを入れていかないと、なかなか減少スピードを抑えることができないのではないか。
- 我々はアナログ世代だが、今の若い人達はパソコンやスマホ等で情報を掴んでいるので、そういう施策に力を入れて出産しやすい環境、子育てしやすい環境を充実させて、インターネット等でPRしていけば、人口減少のスピードも抑えられるのではないか。
- 大変申し上げにくいですが、合併以来、花火産業ということで大仙市として非常に力を入れており、活性化策の一つと理解してはいるが、やはりお金を掛けるのであれば、ドンっと鳴って散るものよりも残るような施策を市で考えていかなければならないのではないか。
- 人口問題もこの先どうなるか分からないが、令和47年の目標人口が4万2千人ということで、何もしなければ減る一方なので、いろいろと計画の策定がされているが、地域住民が協力して取り組み、新たな問題が発生したら相談しながら進めていければと考える。
- 何をすることも最初に雇用、収入を得るためのものがなければどうにもならないと思う。長い目でみて、どういう産業を集中的に育てるのか、全部を広く浅くという感じなのか、どのように考えているか。
- 子育てを含めた結婚と出産の支援を目標の一つにしているところに興味を持った。具体的な考えについて教えて欲しい。
- 令和47年までと長いビジョンだが、このままいくと人口がどんどん減り、各地域で今のような行政サービスはもちろん無理になると思うし、地域が成り立たなくなると思う。合併して十数年になるが、小学校などもそうだが、いずれ消滅する地域というのも出てくるのではないかと思う。その場合、大仙市の中で団地のようなものを造ってそこに人を集めるような形とか、以前からあるが、輪中堤とかといった、人を集めて行政サービスをしやすくするような形のビジョンというものはないか。

- 秋田県は人口をはじめ商工業などの分野でもワーストの部類に入っているが、県としての地域重点施策のようなものはあるか。
- 地域別の人口推計には本当にショックを受けた。減少していくということは何となく分かっていたが、このように数字で表されると、10年後、20年後に自分のふるさとが無くなるのではないかという衝撃を受けた。地域に住んでいる住民自身が危機感を持たなければどうにもならないところに来ているのではないかと思う。この推計については、どこまで公表できるものか分からないが、住民みんなで共有すべきである。
- 県外からUターンした息子夫婦がいるが、大仙市はやはり不便だと言っていた。一番は学童の料金が高く、精算制度になっていないこと。定住には子育て環境が重要と思うがそこがあまり良くないのではないかと思う。
- スマート農業の話があったが、こうした取り組みを進めることは非常に重要なことだと思うが、そうすると小規模農家には余り目を向けてくれないような気がする。また、農業と食に関する活性化基本構想とは具体的にどのようなものか。
- このようなことを市民の皆様に分かってもらうような努力をしないと、よその国の話のようにしか聞こえないと思うので、そこら辺のPRをしっかりとしてもらいたいと思う。
- 市民として何ができるか、何をすればよいか、どのようなことをしてこの問題に一体となって取り組んでいけばいいか、行政サイドで進めるのもよいのだけれども、やはり進めるのであれば、市民が一体となっていかなければ、なかなか効果が表れないと思うので、その辺りのことも踏まえながら、進めていただきたい。
- ようやく地域の現状を表す資料がでてきたなと思う。その他の資料を見ても、例えば、地域協議会のあり方なんか大きく変わるような感じがした。
- 一番大事なことは、行政側、本庁の方から、色々計画を立てて、それに従ってやっていくという面も大事だけれども、やはり、地域の状況を把握しながら取り組んでいくという、そういう面が一番大事だと思うわけで、そういうことからすれば、地域に出かけて、地域住民と直接話し合っ、そこで地域づくりについて問題なり課題なりを共有しながら、進めていくというそういう面を重視してもらいたいと思う。
- この人口減少に伴って、よく言われるが、労働力不足、これが生じてくるわけで、そうすると、この地域にも今はそんなにいないと思いますが、外国人の力も借りないといけないと思う。

- この後、外国人がかなりの数が入ってきて、この周辺で生活をするようになるのではないかと思うわけで、そういうことに絡んでの問題点も色々これから出てくると思う。そういう面もあらかじめ考慮しながら、展望していくということも大事ではないかと思う。
- 人口問題については、依然として厳しい減少だということはわかっているが、この計画全体を評価すると、大仙市のなかでどうにかしよう、大仙市のなかで頑張ろう、そういう計画に見える。この高齢化社会のなかで、東京都は老人人口が増えて困っている。老人施設が足りない。東京都の老人施設を誘致して、若者が働く場をつくる、そういった方向性も考えていかなければいけない時期ではないかと思う。
- 移住定住の場合は、働き盛りとか、若い人を地域に移住してほしいというような計画はあるが、農村生活をしてみたい、リタイヤしてから定年後にこちらの方に来たいという人も結構いると思うので、そういった層の方々が来ることによって、活性化につなげることも一つではないかと思う。
- 確かに、高齢者を移住させれば、社会保障費の負担がすごく高くなるということで、あまり歓迎はしないような雰囲気ではあるが、それも活かし様によってはプラスになることもあるのではないかと思われるので、総合的なところで取り組んでいってもらいたい。
- 大仙市のことではあるが、各地域によって条件が違うと思われるので、そこら辺もまた詰めていかなければいけないのではないか。
- 令和 47 年まで考えているが、せめて令和 27 年とか 37 年頃、ある程度地域の中心になっていかなければならないような世代の人たちも集めて、これだけ大変なんだよという危機感をその人達に植えつけていかなければいけないのではないかと思う。やはり、こういう方々が、仕事があって来られないということではなくて、広報に載せたりして、その人たちにこれから先を真面目に考えてもらわなければいけないのではないか、その人達のことでも一生懸命引っ張っていかなければいけないのではないかと強く感じる。